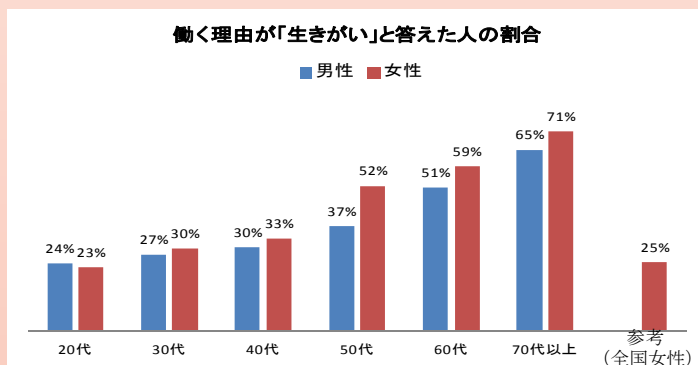
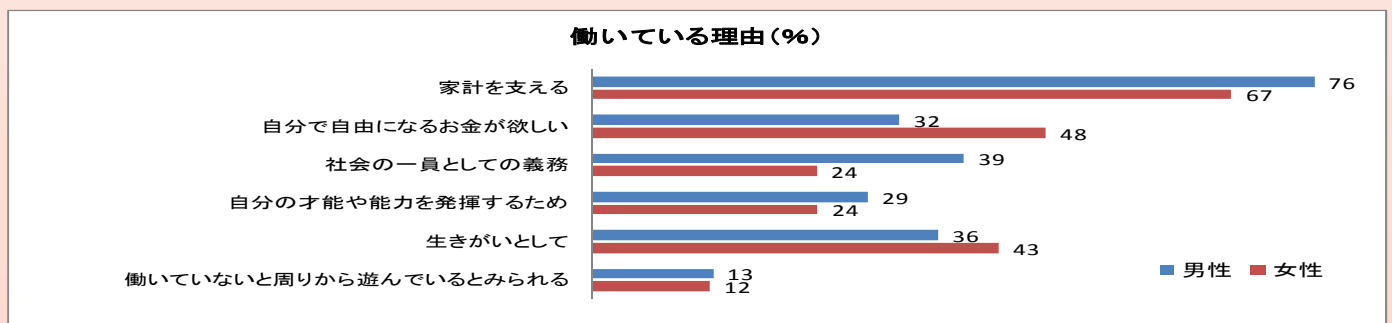


『福井の希望と社会生活調査』 結果の概要(2)

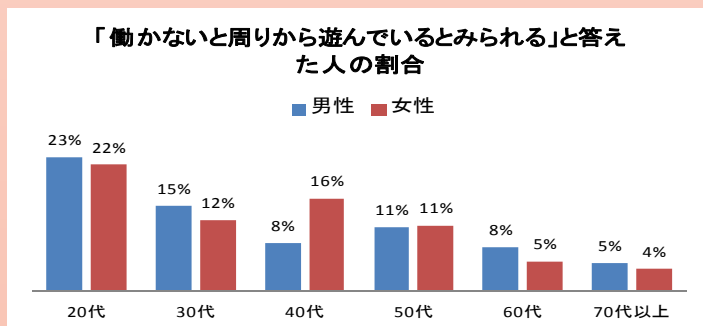
東京大学社会科学研究所は、平成23年3月に福井県の人々の生活の実態と希望を分析するために、『福井の希望と社会生活調査』を実施し、その結果を簡単にご説明するために、パンフレット『福井の希望と社会調査結果の概要』を作成しました。今回、調査研究チームはパンフレット第二弾を作成しました。第一弾と合わせてご覧いただければ幸いです。調査結果についての詳しい説明は、パンフレット4頁目下にあるお問い合わせ先までご連絡ください。

1 福井の女性はなぜ働くのか

福井県は、働く女性の割合（就労率）が、全国的に見ても、とても高い県です（福井 53.0%、全国 49.6%）。福井の女性は、なぜ、こんなに働きものなのでしょう？



注) 全国女性は、男女共同参画局『平成14年度男女共同参画に関する国際比較調査』における「現在働いている理由」を尋ねる質問に「生きがいを得るために働く」と回答した者の割合である。ただし、他の回答項目の数や内容が異なっているため、単純な比較は出来ないため参考とする。



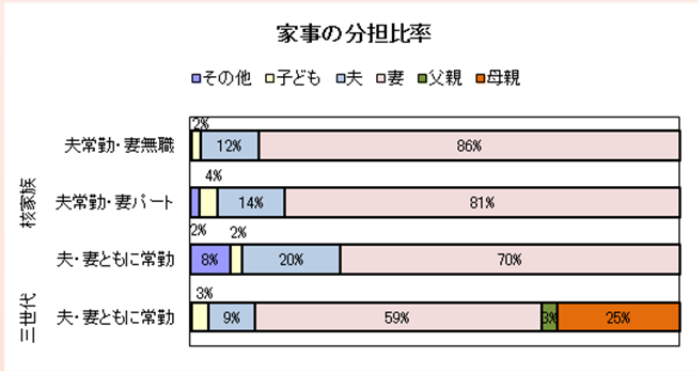
女性たちが働いている理由の中で、最も多いのが「家計を支えるため」です。働く女性の67%が「家計」を理由として挙げています。これは男性と近い数値です。一方、「自分で自由になるお金が欲しい」と「生きがいとして働く」も、第2、第3の理由として高くなっており、男性よりも高い数値となっています。

特に、50歳以上の女性で、「生きがいとして働く」と回答している率が高くなっています。福井の高齢女性が、生き生きと仕事をしている状況を垣間見ることができます。

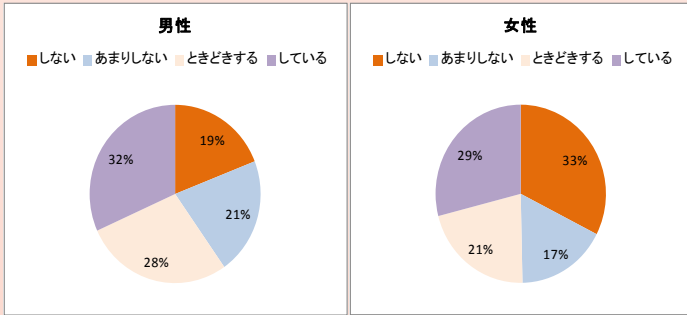
一方で、「働いていないと周りから遊んでいると見られるから働く」と回答する女性も一割以上います。年齢別に見ると、20歳代と40歳代の女性はほかに比べて高くなっており、中でも既婚女性は特に高い割合でそう感じています。一般的に、「働かなければならない」という社会的なプレッシャーは男性に向けられていますが、福井では子育て世代の女性に対しても、そうしたプレッシャーが強いのかも知れません。

2 福井の女性は家でもよく働く・・・でも、趣味・スポーツ活動は少ない

福井の女性の就労率は高いですが、女性の社会進出と家族内の役割分担の見直しは必ずしも連動していないようです。家庭内の家事の分担を見ると、家族世帯では、妻がフルタイムで働いている場合、夫が家事の20%を負担していますが、妻がパートの世帯では、妻が無職の世帯とほとんど変わりません。また、福井で比較的多い三世帯世帯では、妻がフルタイムであっても、家事は、「母親」（妻または夫の母親）が25%を担っており、夫の負担率は1割弱に留まっています。



趣味・スポーツを通して人と会ったり、活動したりする割合



このような状況は、女性の自由時間を制約していると考えられます。

趣味・スポーツ活動を通して交流をしない人の割合は、男性19%に対し、女性は33%。「あまりしない」も含めると、約半数の女性が「趣味・スポーツ」活動をしていません。「あまりしない」「しない」の主な理由は、女性では「時間がない」「仕事の事情」「家庭の事情」となっています。男性では、「仕事の事情」「時間がない」は女性と同じですが、3位が「誘われたことがない」となっています。

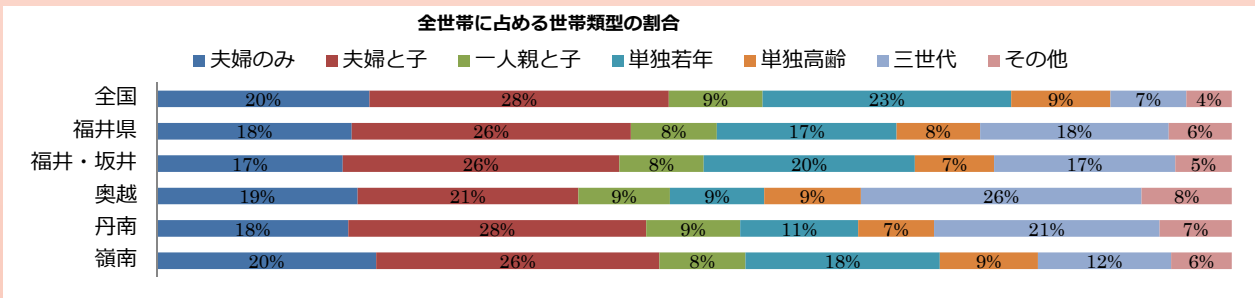
趣味・スポーツを通して人と交流を「あまりしない」「しない」主な理由

	男性	女性
1位 仕事の事情	35%	1位 時間がない 35%
2位 時間がない	31%	2位 仕事の事情 27%
3位 誘われたことがない	20%	3位 家庭の事情 23%

「あまりしない」「しない」と答えた既婚回答者（複数回答）。選択肢はこれらのほか、経済的な事情、健康の事情、その他の事情

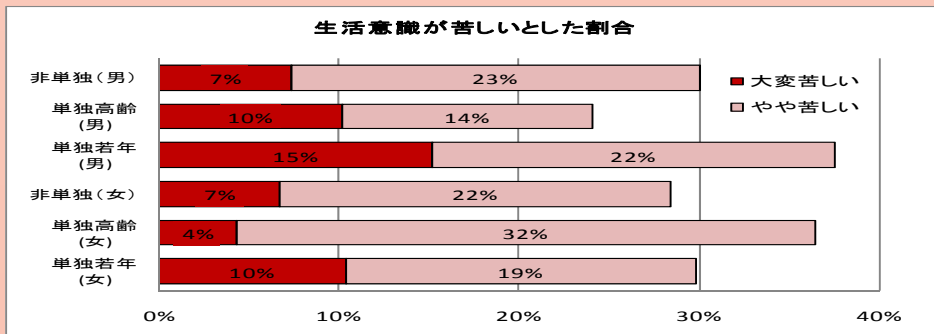
3 ひとり暮らし（単独世帯）の状況

福井県は、全国平均に比べると、三世帯世帯が多く、単独（1人暮らし）世帯が少ない地域です。しかし、それでも、福井県の全世帯のうち17%が非高齢（65歳未満）の単独世帯、8%が高齢（65歳以上）の単独世帯となっており、合わせると4世帯に1世帯が一人暮らしです。

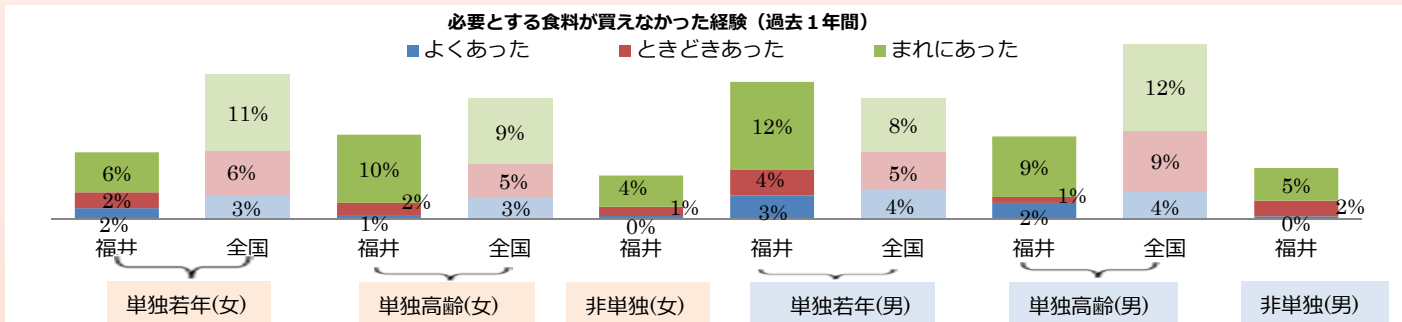


出所：国勢調査

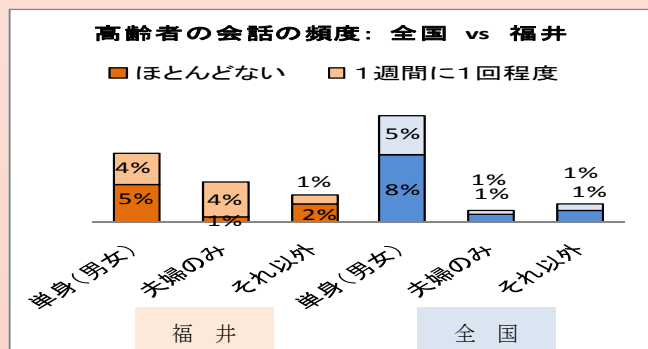
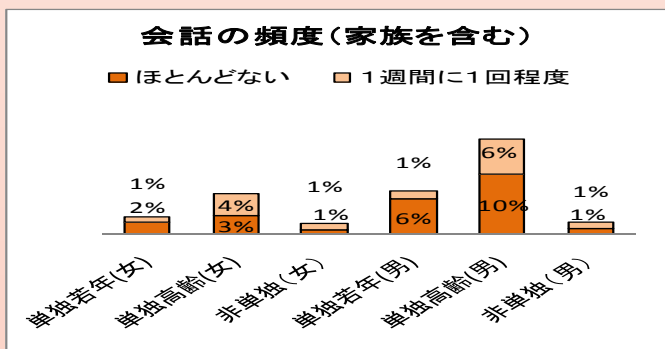
稼ぎ手が多い三世帯世帯や、共働きが可能な夫婦と子世帯に比べて、単独世帯は経済面・生活面などで困窮を抱えることがままあります。福井県は、家族が必要な食料を買えないなどの実質的な生活困難は全国に比べても低く、県民全体の平均的な状況は良好ですが、福井県のひとり暮らし世帯の状況はどうなのでしょう。生活の状況を、「大変苦しい」「やや苦しい」「普通」「ややゆとりがある」「大変ゆとりがある」の5段階で尋ねたところ、単独の若年男性が最も高い割合で「大変苦しい」と答えました。単独の若年女性や、単独の高齢男性も、2人以上の世帯（非単独世帯）に比べて高い割合で「大変苦しい」としています。「やや苦しい」まで加えると、単独の高齢女性も高い割合となりました。



より具体的な生活困難の例として、過去1年間に、必要とする食料が買えなかった経験を見てみましょう。すると、ここでも、65歳未満の若年の男性単独世帯で食料の困窮経験が高くなっています。「まれにあった」まで合わせると合計19%の若年単独男性が食料困窮の経験があり、これは全国の若年単独男性の平均（計17%）より高くなっています。単独の高齢女性、単独の高齢男性も、全国平均よりは低いですが、見逃せない高さであることがわかります。



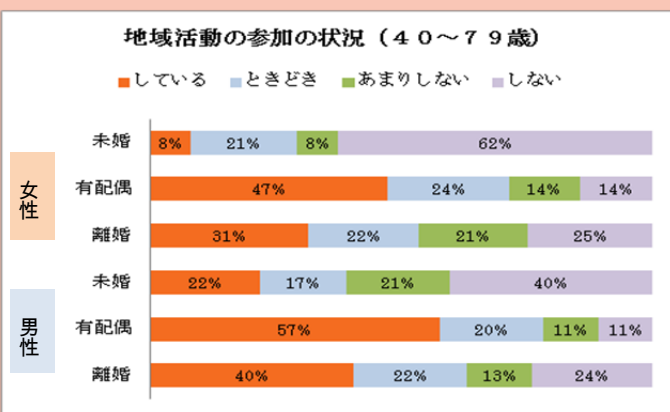
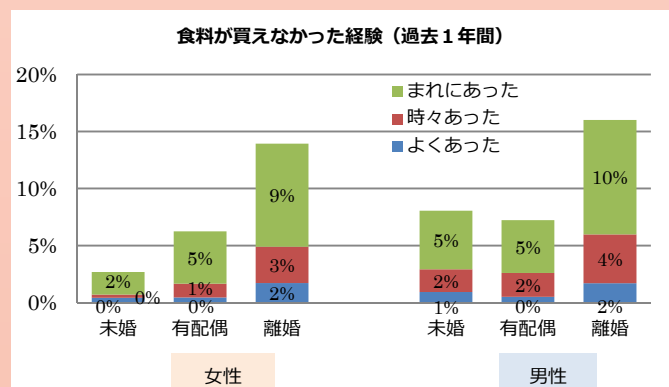
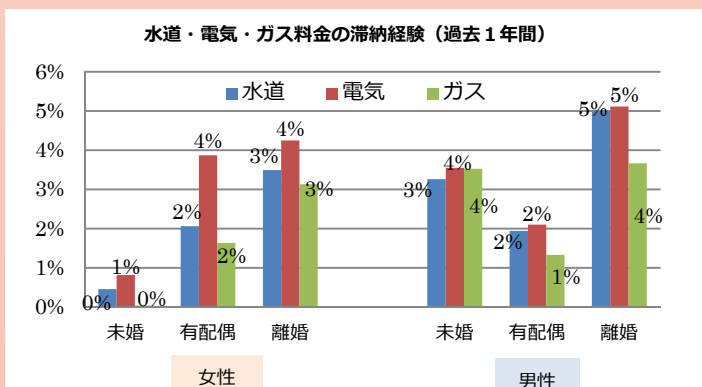
一人暮らしの方々は、また 孤立したり、無縁化するリスクも高くなります。一人暮らしの方とそうでない方とで会話の頻度を比べてみると、特に一人暮らしの高齢男性に会話の頻度が少ない人が多いことがわかります。一人暮らしの高齢男性の 9.8%は、会話が「ほとんどない」、5.8%が「1週間に1回程度」と答えています。また、一人暮らしの高齢女性、一人暮らしの若年男性も見逃せない高さです。単身高齢者の孤立の傾向は全国的にも顕著です。福井の一人暮らしの高齢者は、全国の一人暮らしの高齢者に比べると孤立の度合いは低くなっていますが、高齢者の「夫婦のみ」世帯、「それ以外」（三世帯世帯など）に比べると若干高めとなっています。



4 未婚者・離別者の状況

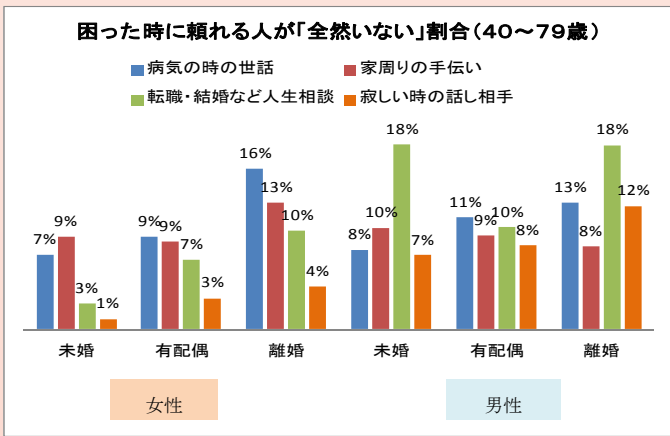
ひとり暮らしの方の生活困難や孤立の背景には、未婚のまま一生過ごす方や、離婚をなさる方が、徐々に上昇しているという事情があります。福井県の生涯未婚率（*1）は 15.83%（2010年、国勢調査）であり、全国平均の 20.14%より低いものの、6人に1人が一生結婚をしない状況です。

結婚の状況（未婚、有配偶（配偶者がいること。死別含む）、離婚）別に、生活の状態を見ると、離婚の男性と女性、未婚の男性において、生活に困難を抱えている方の割合が多いことがわかります。過去1年間に、金銭的な理由で水道、電気、ガスなどの料金支払いが滞納した人の割合は、未婚の女性や有配偶の男性では比較的少ないですが、離婚の男性、離婚の女性、未婚の男性では、その順に高くなっています。



過去1年間に家族が必要とする食料が買えなかった経験がある人は、離婚の男女で突出して高くなっています。離婚経験がある男女、未婚の男性において、生活リスクが高いことが懸念されます。

また、離婚者や未婚者は、町内会などの地域の活動にも参加しにくい状況にあります。未婚者や死別者が多い20代、30代、80歳以上を除いて、40代から70代の男女の地域活動の参加状況を結婚状況別に見ると、男女ともに未婚者や離婚者の参加の度合いが有配偶者に比べて低いことがわかります。

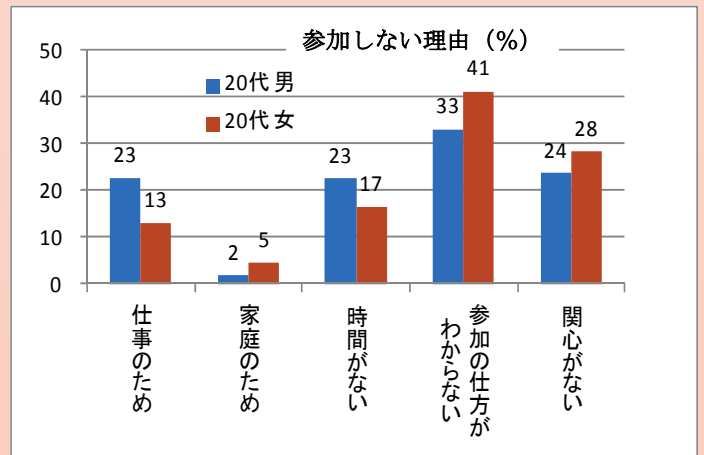
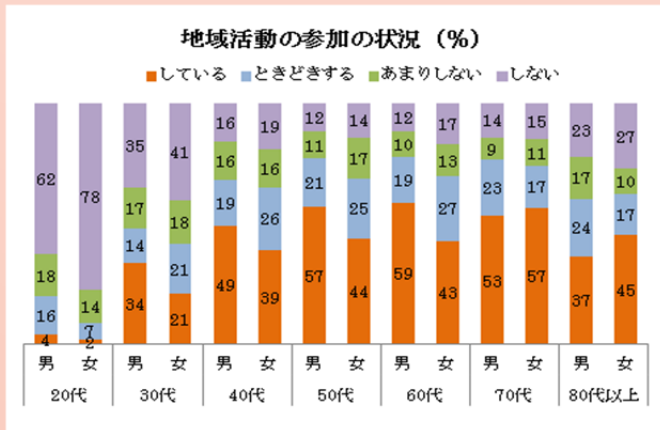


離婚者や未婚者の人は、困った時に頼れる人が同居の家族以外に「全然いない」という回答の割合も多くなります。40歳から79歳で見ると、離婚女性は特に「病気の時の世話」や「家周りの手伝い」に頼れる人がいないことがわかります。男性は、女性に比べて「転職・結婚などの人生相談」や「寂しい時の話し相手」に頼れる人がいない割合が高い傾向があります。特に離婚男性や未婚男性でその傾向が顕著です。

*1 生涯未婚率=50歳時点で未婚の人の割合

5 若者に地域活動の機会を！

次に地域活動の参加の男女差を見てみましょう。地域活動は、コミュニティの「絆」の現れとして近年その重要性があらためて注目されています。地域活動の参加率を性別・年齢別に見ると、70代、80代以上を除く勤労世代では、女性よりも男性の参加が多いことがわかります。また、年齢によっても大きい差があり、特に20代の女性では8割近くが地域活動に参加していません。



20代の若者が地域活動に参加しない理由をきいたところ、「参加の仕方がわからない」が男女ともに最も高く、「関心がない」や「時間がない」を上回ります。適切な働きかけがあれば、若者の地域活動参加は、相当アップする可能性があります

【調査に関するお問い合わせ】

◇特に出所を明記していない図はすべて 東京大学社会科学研究所「福井の希望と社会生活調査」から集計

『福井の希望と社会生活調査』は、東京大学社会科学研究所を中心とした研究プロジェクト・チーム（研究代表者：大沢真理）が、文部科学省の研究助成を得て、平成23（2011）年3月に実施した調査です。

調査の概要： 実施日 平成23年3月2日～23日

対象者 福井県在住の20歳以上の個人 16,000人 回収数 7,008票（有効回答率43.8%）

回答者の属性：男性44.8%、女性54.0%、性別不詳1.1%、20歳代7.6%、30歳代11.5%、40歳代15.4%、50歳代19.5%、60歳以上45.9%

◆東京大学社会科学研究所 大沢真理 研究室

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

Tel 03-5841-4950 Fax 03-5841-4950 E-mail: fukuseikatsu@iss.u-tokyo.ac.jp

◆国立社会保障・人口問題研究所 社会保障応用分析研究部 阿部彩

〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-2-3日比谷国際ビル6階

Tel: 03-3595-2984 Fax: 03-3502-0636 E-mail: ayaabe@ipss.go.jp

【分析】1. 金井郁 2. 不破麻紀子 3. 4. 阿部彩 5. 羽田野慶子

